

平成26年度 事務事業評価シート

事務事業名		中学校音楽鑑賞教室					所管	教育委員会 指導課		
事務事業の概要	行政計画	あり	事業NO.	53	計画事業名	子どもの文化教育の充実		事業の開始・終了年度		
	長期総合計画体系	[基本目標] I-3. 文化が息づく豊かな生活の創出					[事業開始] 年度			
		[小 柱] (4)文化的なまちづくり								
		[施策] ② だれもが文化を享受できる環境づくり[24]					[終了予定] - 年度			
	根拠法令等	その他		[法令等名]	学習指導要領					
	事業対象	区立中学校1年生								
	事業目的	情操豊かな生徒の育成と音楽学習の向上を図る。								
	事業内容	東京藝術大学管弦楽研究部オーケストラによる演奏会を開催し、鑑賞する(新学習指導要領の内容として位置づけている)。 (会場) 東京藝術大学 奏楽堂								
委託の有無	なし		委託内容							
補助金の有無	なし									
事務事業の実績	種 別	指標の名称 (単位)			目標値 (27年度)	23年度	24年度	25年度		
	活動指標	開催回数 (回)			1	1	1	1		
	成果指標	参加生徒数 (人)			758	776	781	774		
	決算額 (単位: 千円)					1,028	1,030	1,037		
	事務事業コスト (単位: 千円)	人にかかるコスト (人件費など)				180	167	157		
		物にかかるコスト (物件費・維持補修費)				65	81	79		
		その他のコスト (扶助費・補助費など)				963	950	958		
		総経費				1,208	1,198	1,194		
財源項目 (単位: 千円)	受益者負担額 (使用料・手数料・負担金など)				0	0	0			
	その他特定財源 (国や都の支出金・財産収入など)				0	0	0			
	一般財源 (区負担額)				1,208	1,198	1,194			
前年度から改善した事項		昨年度に引き続き事業の適正な実施に努めた。								
評価の視点		評価	評価の理由							
	必要性	3	各学校の教育課程に位置付けられており、オーケストラの演奏を鑑賞し本物の芸術に触れることで情操教育を進め、また鑑賞マナーを身につけさせるためにも必要性は高い。							
	効率性	3	東京藝術大学の協力により低コストで実施することができている。そのうえで全対象生徒に対し等しく鑑賞機会を設ける事ができている。							
	手段の適切性	3	東京藝術大学の協力により、現在の手段はコスト面で優位性がある。小学校音楽鑑賞教室と開催日をあわせることで、実施にかかる事務手続きを一括し、単独実施の場合と比較してより効率的に事業執行を行うことができている。手段はおおむね適切であると認められる。							
	目的達成度	3	多くの生徒が本物の芸術に触れる経験ができ、事業目標は達成できている。							
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)						評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了		
効率的に対象生徒に対して音楽鑑賞の機会を提供することができている。実施に関する問題も発生していない。現在の事業規模を維持し、引き続き適正な実施に努める。							維持			